

日本フレルハップ

令和6年10月1日発行 毎月1回1日発行 通巻427号

まいんど

10

2024 vol.36



オーナーを訪ねて



有紀子さん

富士建設株式会社 代表取締役
（親善寺信用金庫 詫間支店）

文化を変える

眞鍋

風景を変える



富士建設株式会社 FUJI

「建築の力」を活かし、 地元企業の存続・発展に貢献

香川県三豊市で、総合建設業を営む富士建設は、企業や公共施設を中心とする豊富な実績と継続的な社会貢献により、高い知名度を誇っている。建設が持つ力で地域に役立ちたいと活躍する3代目社長、眞鍋さんに、その熱い思いと建設業の今後に対する展望、課題への対策などを伺った。

企業の施設拡充を支え、
地域を元気に

「どのような建設が多いですか？」

売上げベースでは、全体の7割が、社屋や工場、倉庫などの企業案件です。とくに最近では、2024年問題などで物流の流れが変わって倉庫の新築が増え、昨年度は冷凍冷蔵倉庫の発注を多くいただきました。このような倉庫は、冷気です中の水分が凍結・膨張して床が押し上げられるため、特殊な基礎工事が必要となります。そのため、地域の土壌に合わせた施工など、実績のある当社への「指名が増え、得意領域として成長しています。」

「企業案件の実績が増えた理由は何？」

私は、地元企業の存続・発展があつてこそ、地域が元気になると思つており、お客さまの事業が維持・向上できるように建築を心がけてきました。例えば、むずかしい改修工事などでも、お客さまの要望に合う工法や進行を提案しており、最近も、地元の食肉加工工場の改修を、設計事務所とともに、生産ラインに十分配慮しながら進めたところ、「生産効率が上ががり、設備投資をした甲斐があつた」と大変よろこんでいただきました。

「御社の強みを教えてください。」

建築をとおして、地元企業の存続・発展に貢献するには、協力業者の人たちとの連携が欠かせません。その連携の強固さが強みのひとつであり、協業をとおして専門業者の持つ知識やノウハウを学び、次のお客さまへの提案に活かしています。また、協力業者と「災害防止委員会」を設置し、意見を交換しながら作業所での事

故撲滅にも努めています。さらに、地域貢献として、子ども向けの野外映画上映会や清掃活動も協力業者とともにを行っています。このような活動が、当社の対応力拡充や信頼強化につながり、ビジネスチャンスが生まれています。

「経営理念などをお聞かせください。」

「良い建築を通じて、お客さまや地域の未来を変える」「建設業界及び建設業に従事する人の地位・所得の向上に取り組む」「地域社会の担い手として参画できる企業となる」が当社の目的です。「良



▲サヌキ畜産フーズ閉読間工場



▲崎池田商店 新居浜物流センター



▲12年かけて修復した大名庭園「中津 万象園」



▲建立した高知市・竹林寺の五重塔

い建築」には、「社会・文化・風景・人生・生活を変える力がある」と考えています。また、本社社屋や工場などの新・改築は、「ここで事業を続けていく」という経営者の決意表明であり、そのような一大プロジェクトに携われる建設業は「カッコイイ仕事」です。「建築の持つ力」を信じ、プライドを持って仕事に取り組みたいと思っています。

五重塔の復興で
祖父が築いた協業姿勢



富士建設の創業者で、眞鍋さんの祖父、利光さんは、大工の家系で育ち、1952年に工務店を創業。翌年に法人化した。当時の建設業は一般的に、大工や左官、瓦葺きといった職人を束ねる「棒芯（世話役）」によって成り立っており、利光さんも職人衆との信頼を強め、事業を拡大していった。

基盤となったのが、1980年に建立した五台山・竹林寺（高知市）の五重塔である。

「台風で倒壊した三重塔を五重塔として復興させたい」という住職や檀家の人たちの悲願に触れ、

かねてより五重塔を建てたいと思つていた祖父が、京都の宮大工さんたちの力を借りて完成させたと聞いています。いろいろな方と協業をすることで五重塔さえも建てることのできる、という発見は、当社の転機となりました」

大名庭園の再建・管理で
自治体と連携

現在、丸亀市の指定名勝として知られる大名庭園「中津 万象園」は、かつては荒廃が激しかったが、祖父、利光さんが1970年に買い取って12年かけて修復し、82年に開園した。その後、美術館を併設したり、茶室「観潮楼」を修復したりと手を入れ、いまは市民の憩いの場として親しまれている。このような取り組みのベースには、利光さんの「仕事だけで文化を知らないことはさびしいことだ」「企業は個人で財を貯めるのではなく、得た利益を地域に還元すべきだ」という考えがある。その思いを現・同社長で、眞鍋さんの父、雅彦さんが受け継ぎ、継続的な運営のために奮闘した。

疲労やストレスが少ない、働きやすい職場づくり

中川 潔
(安全安心株式会社)

労働安全衛生コンサルタントとして、業界問わず安全で快適な職場づくりをサポート。安全衛生診断、現場指導や安全教育などを行い、企業の安全衛生レベル向上に努める。

多くの人にとっての快適さをめざしながら個人差にも配慮

職場は、働く人々にとって生活時間の多くを過ごす場所。疲労やストレスを感じることの少ない快適な環境を整えることが重要です。

労働安全衛生法(第71条の2、3)では、快適な職場づくりが事業者の努力義務とされ、「事業者が講ずべき快適な職場環境の形成のための措置に関する指針」(快適職場指針)が厚生労働大臣から公表されています。

同指針では次の4つの視点から措置を講じることが望ましいとされています。

1. 作業環境の管理 不快と感ずることがないよう、空気の汚れや温度等の作業環境を適切に維持管理する	①空気環境 ②温熱条件 ③視環境 ④音環境 ⑤作業空間等
2. 作業方法の改善 心身の負担を軽減するため、相当の筋力を必要とする作業等について、作業方法を改善する	①不良姿勢作業 ②重筋作業 ③高温作業等 ④緊張作業等 ⑤機械操作等
3. 疲労回復支援施設の整備 疲労やストレスを効果的に癒すことのできる休憩室等を設置・整備する	①休憩室等 ②シャワー室等の 洗身施設 ③相談室等 ④環境整備
4. 職場生活支援施設の確保 職場生活で必要となる施設等を清潔で使いやすい状態にしておく	①洗面所・トイレ・更衣室等 ②食堂等 ③給湯設備・談話室等

ただし、快適と感ずるかどうかには個人差があり、「多くの人にとっての快適さをめざすこと」を基本に、個人差への配慮も大切です。

また、快適化の第一歩は作業環境等のハード面の改善を行い、不快な要因を取り除くことですが、それだけでは十分ではありません。労働時間、安全衛生管理の水準、職場の人間関係、働きがいなども、人が快適さを感ずるための重要な要因となりますので、次の点にも留意しましょう。

①継続的かつ計画的な取り組み

- 快適職場推進担当者の選任等、体制の整備をする。
- 快適な職場環境の形成を図るための機械設備等の性能や機能の確保についてのマニュアルを整備する。
- 作業内容の変更、年齢構成の変化、技術の進展等に対応した見直しを実施する。

②労働者の意見の反映

- 作業者の意見を反映する場を確保する。

③個人差への配慮

- 温度、照明等、職場の環境条件について年齢等、個人差へ配慮する。

④リラックスできる環境づくり

- 作業者がリラックスして過ごせる、居心地のよい環境をつくり出す。

快適な職場環境は、従業員の疲労やストレスを緩和するだけでなく、やる気や生産性の向上も期待できます。会社の利益につながると考えて積極的に取り組みましょう。また、従業員の意見を取り入れた職場づくりをめざし、従業員が自由に発言できる雰囲気づくりにも努めましょう。



▲幅広いテーマの講習が開かれている「監督塾」



▲若手社員を中心に、地元の紫雲山・山頂公園を清掃

なっています」

社長就任時の失意と覚悟

眞鍋さんは、法学部を卒業後、同社に入社。地元の人たちから祖父や父が手がけた建築にまつわる話を聞くうち、建築にはそれぞれの物語があることに気づき、季刊誌を発刊したり取締役会での発言力を高めたりするなど、事業への関わりを強めていった。

「2017年、社長に就任。ところが当初、従業員や協力業者を束ねるといった経営者としての力を父に認めてもらえず、『任期は5年』と公言されました。落ち込みましたが、自身に経営者としての目線が不足していたことを反省し、父が認める経営者になれるよう、人材教育などにも力を入れるようになりました」

地域貢献が地元での信頼に

先述した地域への貢献心も、富士建設の社員が創業者から受け継いでいるもののひとつ。例えば、公園での毎年の清掃活動は今年で47年目を迎え、県内外から表彰さ

れるなど、地域における信頼を醸成している。「当社が地元の団体・企業の活動支援のため、2015年、クラウドファンディングのサイト『FAAVO香川(現在は終了)』を立ち上げたときも、それまでの地域貢献活動が評価され、賛同してくださる方が少なくありませんでした」

地域未来牽引企業に

富士建設は、2018年、経済産業省が地域経済の中心的な担い手として選ぶ「地域未来牽引企業」となった。「地域特性の活用事例」「経営者の特筆すべき特長」「優れた経営手法」などが評価された結果である。

「申請書類の作成では、観音寺信用金庫さんが、丁寧に根気強くヒアリングやアドバイスを続けてくださいました。『地域未来牽引企業』に選んでいただいたのは、その二人三脚での取り組みの結果だと感謝しています」

建設業の課題に取り組む

日本における建設業就業者の数は

はピーク時の1997年に685万人を数えたが、2023年には483万人ほどに激減。深刻化する建設業の人手不足に対し、富士建設では、この夏から、新入社員の育て方を49歳以下の若手幹部社員が考え、実践するプロジェクト「U49」をスタートさせた。一方で、現場担当者のスキル向上をめざした「監督塾」も開催している。

富士建設株式会社 PROFILE

所在地:香川県三豊市詫間町詫間300番地1
TEL:0875-83-2588
FAX:0875-83-5864
<https://www.fujikensetsu.jp/>

